

中沢かつゆき 通信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

自民党鎌倉市連合支部青年局長

2月議会

2月議会は、予算特別委員会が設置され、次年度の市政運営を左右する議会です。昨年は現市長の初めての予算提案でしたが、議会から修正動議を提出し可決されました。市長選の時のマニフェストを通したいという市長と、柔軟な対応を求める議会と様々な課題で意見が一致していません。しかし、景気回復が不透明な中、子育て支援と景気回復は最重要課題です。さらに、安心・安全な街づくりは政治の基本でもあります。今議会に提案される予算をしっかりとみていきたいと思ひます。そして、次代の鎌倉につけを回すことのないような、予算にしなくてはと思ひます。

一般質問では、昨年12月に発生し大きな被害を出した竜巻について、防災の初期における調査、初議会から質問を続けている砂押川沿い歩道整備について質問をしました。竜巻については、被害箇所や行政の支援策などについて情報が錯そうしました。このことを教訓に災害時の初動調査の大切さをしっかりと確認をしました。砂押川歩道整備では、ようやく動き始めました。さらに、12月議会でも取り上げました、小学校などのミニ防災拠点の水井戸を利用可能に修理するというこで、まず第二小学校で実現しました。復活した井戸で、子供たちが大喜びです。

動き出した砂押川歩道整備

2年前の選挙において、公約として掲げた「砂押川歩道整備」が、ようやく動き出しました。昨年2月議会で、23年度中にまずできることからやり始めます、という答弁をいただきました。本年1月、市の担当課職員が砂押川私有橋所有者の方に歩道整備の同意について、調査に伺いました。その後担当課との話では、河川への歩道整備について法的には問題ないが、鎌倉市単独事業としては予算的に厳しい状況とのことでした。また、施工方法も再検討の必要があるとのことでした。地元選出の中村省司県議と相談し、県からの補助金と国からの補助金を受けられる方法がないか県の担当部局に相談しました。結果、鎌倉市と県の担当課が直接会い、国土交通省からの回答で整備についての補助金は問題がないことを確認しました。県としても、地元の強い要望、危険度の高い箇所、強い必要性など考えると、歩道整備について問題がないと回答がありました。平成24年度にまず調査と最終地元調整を行い、25年度で設計を行っていくということを確認しました。今後は、25年度中の工事着工に向けて担当課とも連絡を密にしていきたいと思ひます。施工方法は、護岸工事との一括整備ではなく、歩道単独整備方式が現実として可能な施工方法ではないか、とのことです。護岸工事一帯施工が優先工法ですが、歩道単独施工が早くに施工可能であれば、その方法で早急に検討をお願いしました。30年来の地元の皆さんの願ひが、ようやく実現に向けて動き始めました。さらに加速させていくために、中村県議とともに進めていきたいと思ひます。

竜巻

12月3日に発生した竜巻と推定される突風では、住宅損傷212か所を始め多くの被害を出しました。12月1日の議会一般質問で災害時の復興計画について質問をしましたが、今回の竜巻では、情報が錯そうしたり担当課の連携がうまくいかなかったりと多くの教訓を得ることとなりました。特に、災害対策本部が当日解散となった後の市民の方からの様々な問い合わせに対応する体制が、課題となっています。今回の竜巻でも明らかとなりましたが、初期調査の重要性はその後の復旧、復興においていかに迅速に対応できるかのカギとなります。災害が発生したとき、人命救助は最優先です。どこでどのくらいの被害が出ているか、所在確認ができない方はいるのかどうか、建物の被害状況はどうか。それをまず調査しなくてはなりません。その結果に基づき救助の応援を依頼します。避難場所であるミニ防災拠点が使用可能かどうかも重要です。多くの建物が被害を受ける災害の時、ミニ防災拠点も被害を受けることが予想されます。ミニ防災拠点が使用できないとき、次の避難場所の確保も考えなくてはなりません。その時ミニ防災拠点以外の公共施設が避難場所となりますが、その施設の被害状況を確認し情報提供を行わなくてはなりません。個人建築物が使用可能かどうかは、個人で依頼をしなくてはなりませんが、その対応も市で行うことが大切です。ライフラインの復旧でも、特に調査をきちんと行わないと、復旧工事が遅くなってしまいます。市内の空地がどのくらい使用可能かを調査し、そこにテントを張ったり瓦礫を運んだりします。今年度阪神淡路大震災被災地域では、震災から16年で、ようやく震災復興土地区画整理事業計画が終わります。復興には多くの時間と費用がかかります。初期調査が復旧・復興に果たす役割が大きくなっていますので、鎌倉市でも体制整備をさらに進めてほしいと思います。

災害時に利用可能な井戸整備について

12月議会で取り上げましたが、ミニ防災拠点の水井戸が利用できない状態になっていました。ミニ防災拠点でもある第二小学校で、まず利用できるようにしましょう、ということで2月に修理をしていただきました。寒い中、早速子供たちがポンプを押していました。くみ上げるにはコツが必要で、「教えてあげる」と大喜びです。順次、他の水井戸も整備していきたいと思っています。



壊れて使えなかった井戸



新しい井戸ポンプ

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学理工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所
客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ理事
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
鎌倉市テコンドー協会顧問
県議会議員中村省司秘書
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)

二階堂在住

事務局：Tel 0467-61-0305

Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？



* 中沢は温泉コンサルタントでもあります *

温泉津温泉：世界遺産登録を目指す鎌倉に先駆けて登録された石見銀山の門前にあるのが、温泉津温泉。石見銀山は戦国から江戸時代にかけて採掘され、当時の銀世界産出量3割を産出していたといわれています。大内氏と尼子氏が争奪戦を繰り広げ、毛利氏が尼子氏に勝利を収めて手中にしました。江戸時代は幕府直轄領となっています。縁結びの神様として、また神々が集う神話の里の中心・出雲大社から1時間で温泉津温泉。縁結びの神様大国主命が傷ついたウサギを癒したとの伝説もある、古くからの温泉です。泉質はナトリウム・カルシウム—塩化物泉。腰痛にいいということで全国から集まる温泉です。源泉温度は46℃と少し高めですが浴槽ではちょうどよくなります。国の重要伝統的建築物群に指定された街並みの中でも、懐古調の薬師湯は、有名な建築物です。原爆症の治療としても利用されている温泉です。神話の里に思いを馳せてゆっくり体をほぐしてみたいか？ <http://www2.crosstalk.or.jp/yunotsu/>